～活き活き活動・地域に貢献～

石井造園の取り組み紹介

やってます！Facebook
● 石井造園
http://www.facebook.com/ishniizouen
●盆栽カフェ
http://www.facebook.com/bonsaicafe.ishii

社会貢献に関する取り組み

昨年のCSR報告会で水琴窟の寄贈を発表し、本郷ふじやまの例を報告させて頂きました。その486本でございました。受け取りに来て頂いた皆様から「翠風荘への寄贈が去年頂いた苗木が腰の高さまで伸びた」「毎年花を咲かせています」という言葉を頂くことができ、とても嬉しく思っています。累計本数は5126本となりました。苗木を渡すときに応援メッセージを書いていただき、そのメッセージはみどりアップ推進課に派遣研修、職場体験報告させて頂いております。

回数を追う毎に来場者数が増えていく取り組みを伝道する活動が目立ちました。弊社の活動を体感してもらうことでより効果的にCSRへの取り組みを理解してもらえたかと思います。

今年度のみどりアップ計画賛同による苗木配布の本数は後も旧住友家俣野別邸、老人福祉センター琴風荘への寄贈が終わり計3カ所の水琴窟設置により記念事業を終える事が出来ました。水琴窟の施工は弊社会長からの若手に伝統技術が伝わり、個の成長というメリットを得られたと思っています。

今年度の取り組みを振り返ると26件という活動の中で企業研修、職場体験、CSR活動への取り組みを伝道する活動が目立ちました。弊社の活動を体感してもらうことでより効果的にCSRへの取り組みを理解してもらえたかと思います。

今年度のCSR報告会で水琴窟の寄贈を発表し、本郷ふじやまの例を報告させて頂きました。その486本でございました。受け取りに来て頂いた皆様から「翠風荘への寄贈が去年頂いた苗木が腰の高さまで伸びた」「毎年花を咲かせています」という言葉を頂くことができ、とても嬉しく思っています。累計本数は5126本となりました。苗木を渡すときに応援メッセージを書いていただき、そのメッセージはみどりアップ推進課に派遣研修、職場体験報告させて頂いております。

回数を追う毎に来場者数が増えていく取り組みを伝道する活動が目立ちました。弊社の活動を体感してもらうことでより効果的にCSRへの取り組みを理解してもらえたかと思います。

環境に対する取り組み

NPO法人環境文明21、日刊工業新聞社主催による2016年度経営者「環境力」大賞を受賞いたしました。この背景には地球温暖化、生物種の絶滅、生活環境、経済環境の悪化を食い止めようという思いや、未来へと続く持続可能な社会を構築したいという願いがあります。この審査には「21世紀の社会をリードする経営者の資質」という12の項があり、それに対する思いや考え方、事業活動などを「環境力」として自己評価した書類を提出したところ8社の中に弊社が選ばれました。

横浜みどりアップ計画のひとつである「地域緑のまちづくり」では関内地区市街地緑アップ推進会様からのご依頼により、関内の海岸通り四百五十メートルの両サイドに各国々植生をイメージした12種40基に及ぶプランターを設置いたしました。その植え付け作業を地域の皆様にご協力頂き、ひと株ずつ植込みをして頂き、賑やかなイベントとなりました。

業務とはいえ、弊社としてもアスファルトとコンクリートだけの場所に癒やしの空間を創れたことを嬉しく思い、やりがいを感じる仕事でした。

また、環境未来都市横浜のブルーカーボンオフセットにも取り組み「親しみやすい海づくり」臨海部の低炭素化、海洋におけるエネルギー資源の有効活用にも協賛いたします。

ワーク&ライフバランスへの取組み

平成28年度「よこはまグッドバランス賞」を頂き、働きやすい事業所として認定して頂き、今年度で4年連続となりました。

子育てしやすい事業所として認定して頂き、今年度で4年連続となりました。

同様「おとうさんがんばるぞ」という気持ちになります。だからこそ会社の答えとして、休暇を取れる環境を整える事が必要だと考え、実践いを持って仕事に取り組むことが充実したワークにつながるのではないかと思います。

働くことと大きく関係しているにもかかわらず、対局に位置している物はなにかと考えた時、多々あるうちのひとつに「介護」という問題があると思います。弊社でもそのような社会問題について考えるべく「仕事と介護の両立セミナー」を弊社社労士の元で行いました。「事前の心構え」「仕事と介護の両立の為の5つのポイント」「働き方の見直し」この3項目を弊社に照らし合わせると、親が75歳を過ぎたあたりから要支援・要介護の比率が上がり、介護をする側の年齢としては、50歳ぐらいが該当する計算になります。

弊社のケースでは20代後半者で介護の一件は事故・病気による介護の発生で30歳で親元にもどり、いずれも退職・転職となり、経営資源としての人材の喪失となりました。この事が機会にセミナーの開催に至るのですが、その両立するポイントのひとつに、勤務先の両立支援制度を利用する手段を学びました。

現在この支援制度を策定中です。

働くとは？仕事とは？。今年度は弊社に新入社員が3名入り、業務に励んでおります。入社してしばらくすると、慣れが生じた社員が、「知っている」わかっている」となってくるのは当然です。しかし「できている」とは限らない場合があります。そこで、改善する場として「リフレッシュ研修」を行いました。様々なカテゴリーの中で「幸せになる働き方とは？」という事に関して①仕事の目的を把握すること②仕事を通して自己成長③人と価値観を共有すること④相手を築くこと⑤相手を思いやり、役に立てるように意識・行動することはなく自分が主体となって働くこと、など項目について考える時間を持ちました。また、幸せになりにくい働き方とはなにか？についても議論したところうまくいかない原因や、行動しない理由を他人や環境のせいにしてしまっていることなどがあげられました。もしかしたら自分が間違っているかもしれないという客観的な自己批評も必要だと指導して頂きました。

このように私生活や、個人の資質が仕事に対するやりがいに大きく関わっていると感じました。

情報公開への取組

今年度ホームページを刷新いたしました。情報公開のツールとしてホームページを活用し、会社概要、活動、環境地域へのCSRの取組み、ISO認定企業としての取り組みなどを公開しております。ISOの取組みでは、お客様アンケートを実施し、その内容を公開しております。またスタッフ紹介として社員の顔写真とコメントを公開し弊社の社員をホームページで確認できる環境にし、安心安全を提供できるようにしています。

伐採した樹木を廃棄するのではなく、玉切りにし、薪として根強い薪ストーブファンの皆さまに提供しています。その入荷情報を公開し、その他にも盆栽カフェの開催情報なども掲載しております。

ホームページは現在もまだ改良を重ねております。スタッフブログも追加予定でありますのでご期待ください。

カーボンオフセット

国の制度に基づきカーボンオフセットをしています。弊社の場合、CO2排出量の内訳として水道0.036、ガソリン18.928、軽油32.768、電気6.636で、合計58.368t-CO2となりました。この数字を58として排出権を購入しました。ひとつはJ-クレジットで住宅における太陽光発電設備の導入に56クレジット、J-VCUで宮城県米川生産森林組合の森林整備事業に2クレジットを購入し総額で約2,080でした。そしてブルーカーボンとしてT-CO2を横浜市漁業協同組合におけるわかめの地産地消によるCO2削減事業にクレジット購入しました。

日々の業務では現場で使用するダンプのアイドリングストップや、重機も低騒音・低排出ガスの基準を満たした物の使用を意識しています。

これからも環境未来都市横浜の地域企業として身近な環境に対しても責任を取って参ります。

長期インターンシップ

学生が就職活動をし、働き始めた後にミスマッチを感じ、転職もしくは精神的苦痛から負の悪循環に陥ってしまうという社会現象のある中で、学生のうちに企業で職場体験をする意味は大きいと考えています。体験の中で自分の仕事に対するやりがいや、個性を活かして社会にどのように貢献していくかを考えるきっかけを与えることが出来たらと思っています。

弊社では今年度2名の学生を受け入れました。ひとりは高知大学生、もう一人は慶應義塾大学生です。高知大学の堀内さんは、緑化フェアで行うイベントや、ワークショップの企画と提案を行いました。

慶應義塾大学の真道さんは期間中、実際にブースを運営しインスタグラム、フェイスブックを利用して情報発信を行い石井造園の壁面緑化の広報を担当してもらいました。

他にも社長の秘書として同行し仕事が生まれるその瞬間も体験できました。

そして企業側としても、社員がスーパーバイザーとして学生と目標に向かって一緒に考える事を通し社員の成長にもつながったと思います。インターンの学生を受入れることで我々も、違った視点で物事に取り組むことが出来るというメリットがありました。

ついでに　無理なく　達成感のある活動

伝統技術の継承と企業ができる教育

はまっ子未来カンパニープロジェクト

今年度の新たな試みとして横浜市のキャリア教育（自分づくり教育）に参加申請し、連携機関として登録いたしました。子供たちが自分たちで社会課題を解決する今回のプロジェクト。参加企業で、どのような学習を行うかを決める協議にも参加し、子供たちが「これからの社会を育むにはどのような活動をすればよいかについて真剣に話し合いました。子供たちが「本気になるとこんなにすごいことができるんだ」と思えるようなプロジェクト内容を考えました。

中でもトンボ池の整備は弊社業務の中核となっている事業内容であり、動植物が自然な状態で生息できる池を作るノウハウを子供たちに教えることができました。改修に向けて子供たちが出す多彩なアイデアを、我々の持つ専門的な知識とすりあわせ、実現していくことはとてもやりがいのあることでした。子供たちにとっては活動を通し、誰かの役に立つ経験を得ることができたかと思います。そうして、苦労して作り上げた物が学校や地域の為になっていることを、実感し、小さな自信にしてもらえたらと思います。

五十周年記念事業　伝統技術の継承

業界基盤を作り、石井造園株式会社が受け継いでいる樹齢50年の樹木は、昭和の時代に植えられたものです。歴史を紡ぐ針葉樹は、昭和の時代に植えられたものです。経営方針として、石井直彦現会長が「変化しないもの、変化しているものの共存」を掲げています。

伝統技術というものは、進化はしていても変化は、基本的には変わらないものです。

究極の音色を重ねて、「水琴窟」は、唯一無二の音を奏でる技法です。

同じ音色の物は二つとして出来ないほどの個性があります。

園内の音は、「聞こえる」という音ではなく、周りの雑音が消える頃にふと耳を澄ますと「聞こえてくる」音です。例えば風の無い夜、そろそろ寝ようかと窓を閉めようとする、庭の水辺からキン、キン、と微かな音が聞こえてくる。なんとも風情のある音です。

このように、我々は仕事を通して伝統技術を間近で見て学んだり、そのほかに美しく変わって出来が大きくなる事で既存の伝統を後世に残していくことも会長からは「美しい木とは？」と講義を受けたりもしています。新しい物を作ることは、我々の使命でもあります。

水琴窟の音は「聞こえる」

水琴窟の音は「聞こえる」という音ではなく、周りの雑音が消える頃にふと耳を澄ますと「聞こえてくる」音です。例えば風の無い夜、そろそろ寝ようかと窓を閉めようとする、庭の水辺からキン、キン、と微かな音が聞こえてくる。なんとも風情のある音です。

このように、我々は仕事を通して伝統技術を間近で見て学んだり、そのほかに美しく変わって出来が大きくなる事で既存の伝統を後世に残していくことも会長からは「美しい木とは？」と講義を受けたりもしています。新しい物を作ることは、我々の使命でもあります。

石井造園 株式会社

CSR報告書

2017.6.17発行

〒247-0006
神奈川県横浜市笠間4-11-5
TEL　045-891-1501
FAX　045-891-2785
http://www.ishii-zouen.co.jp

YOKOHAMA 横浜型地域貢献企業

幸せを共有できる 企業を目指して

石井造園株式会社　代表取締役　石井直樹

昨年の創業50周年に際し、皆様からの熱いご厚情に深く感謝いたします。

通過点として区切りの年度として、更なる百年を目指す！という思いではなく変わらぬ方針で地域と共に繁栄して行こうという、静かな気持ちでおります。

50周年記念事業として皆様にお約束していた水琴窟を寄贈するという公共貢献事業も、本郷ふじやま公園、俣野別邸公園、翠風荘の三カ所にお渡しすることが出来ました。

設置に伴い横浜市みどりの協会、各区役所の皆様にご理解ご協力頂いたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

今年度最大の挑戦は、第33回全国都市緑化よこはまフェアのグランモール公園内に壁面緑化ブースを展示し、72日間運営したことです。

弊社は5年前に壁面緑化の基盤材で構造の特許を取得しておりましたが、販売や世に広めることをしていませんでした。緑化フェアを千載一遇のチャンスと捉え21×31のキューブ型展示スペースにロハスでみどり豊かな暮らしを提案するブースを設置しました。

地産地消の食材の6次化製品を販売したり、花や花の香りを使ったワークショップを開催したり、盆栽CAFEと称し、コーヒーと盆栽販売でGOOD JAPANを提唱しました。

またスーパーフライデーを意識づけるため、毎週金曜日に路上ライブを開催しました。

これは二代にわたるインターンシップ生の努力の結果で高知大の堀内彩加さんが企画を立て、今年度インターン生である慶応義塾大学の真道穂君が運営に当たり、植物に囲まれた心地よい空間を提供し、本業の庭作りの受注にも繋がりました。緑を愛でる優しい気持ちを醸成することができ、130鉢を超える盆栽を、関心のある方々の元に、お渡しすることができました。

全国都市緑化フェアは、業界としての悲願であり誘致に向けた準備をしてきました。開催期間中の来場者は目標を大きく上回る650万人を数えましたが、開催地横浜市民の緑や緑に対する意識の向上に努めるのは我々造園業のこれからの使命であります。

そして、今年度のCSR活動としては、26の活動を行うことができました。昨年に引き続き環境分野では「経営者環境力大賞」を頂きました。全国の志の高い皆様との交流もでき造園業を景観環境産業と捉え、快適空間をお届けする決意を固めました。

次に、横浜型キャリア教育の一環として自分づくり教育、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に協力しました。

市内小中学校29校に対し企業団体25社が併走し、起業家マインドを養う授業を行い、弊社では、笠間小学校の「地域を巻き込むピタゴラスイッチ」に携わりました。本郷小学校では、「地域に開かれたビオトープ作り」を担当しました。子供たちに伝えたかった事は、自分が地域社会の一員として役に立つ存在であるという事や、自分を支えてくれる人達が周りにいるという事です。2校とも大成功で、将来横浜を背負って立つ逸材が地域から排出される事を願ってやみません。

26の活動イベントにはそれぞれストーリーがあり、笑顔溢れるこれらの活動を通し、経営理念である「幸せを共有する企業」実現していきます。より質の高い公共設備を横浜にお返しするミッションでは今年度は、2件の改良工事に86点を頂き今までに横浜市発注の弊社受注工事は39件、うち35件に80点以上の評価を頂いております。

マネージメントレビューを実施し、CSR目標を策定していくことで、これからも「幸せを共有する企業」を目指して社員一同邁進して参ります。

CSR推進担当として

CSR推進責任者　岩崎　文昭

チャールズ・ダーウィンは、最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない、唯一生き残るのは変化できる者である、といっています。

1日に5時間ほど平均寿命が延びているという説がありますが、そういう時代だからこそ、これから来るであろう平均寿命百歳の時代に向けて、様々な変化に対応していくことができるCSRとESをマネージメントしていこうと考えています。

石井造園株式会社　経営理念

企業活動を通して、幸せを共有する企業を目指す

CSR方針

石井造園株式会社は経営理念にある、幸せを共有する企業を目指すため、生業のすべてにおいて、地域志向CSR方針を打ち立て事業を展開していきます。

1）活き活きとした活力ある職場環境を作ります。
2）仕入れや発注先は地元を優先し、地域経済の発展に寄与します。
3）緑を扱う物として地球環境の改善に貢献します。
4）法に抵触する事はもとより、事後に発覚し格好の悪いことは絶対にしません

CSR方針に基づき地域社会の一員として、地域に活かされている我々で有ることを確認し、幸せを共有する地域貢献企業として事業を展開していきます。

平成２９年度方針

- 社員の家族を巻き込んだ活動を行う
- 環境経営に力を入れる
- 各現場で緑化啓蒙活動を実施し苗木配布を750本する
- 倫理的行動規範を充実する
- CSR企業とのコラボレーション

緑あふれる地域のために

緑化基金 やってます

平成２０年度より弊社が独自に緑化基金を設立しました。基金は緑あふれる地域の学校、施設、団体の活動のために使わせていただきます。基金は、弊社業務の各現場ごとの請求金額の下３桁の金額を基金にあてます。

そして、さらにその同額を石井造園が上乗せします。そうして積み上げられた年間の合計額を諸団体と相談して、植樹、鉢植えの寄贈など緑化活動の為の費用として大切に利用しています。平成２８年度は１３９、７４３円が集まり、弊社が同額を上乗せ、よって２７９，４８６円が今年度の緑化基金となります。今後も引き続き継続していきます。小さな活動ですが、地域のためにできることを一歩づつ積み重ねてゆきたいと思います。

平成２８年度　緑化基金にご協力頂いた皆様

(宗)青木神社・(宗)定泉寺・(有)早田建興・BASFジャパン(株)・ケーアイケーエンジニアリング(株)・NTT都市開発ビルサービス(株)・横浜市ガリーン事業協同組合・湘南桂台みどりの会・(有)アトリエミカ・(宗)阿彌陀寺・イオンディライト(株)・エミナンス井土ヶ谷管理組合・畳田地域ケアプラザ・下倉田地域ケアプラザ・池田印刷(株)・オルタスクエア(株)・笠間中央公園愛護会・学校法人大公学園・三洋装備(株)・三和紙業(株)・三菱重工業(株)・三井住友海上・光建設工業(株)・大洋建設(株)・陽の香り・港北ニュータウンシンフォニックヒルズかがやきの街管理組合・トキワ保育園・日本大通り活性化委員会・藤崎建業(株)・社会福祉法人ルーブルかさまの杜保育園・ル・プリ中野地域ケアプラザ・ヒルトップギャラリー横浜レジデンス管理組合・ライオンズテラス弘明寺管理組合・ライオンズヒルズ横須賀浦賀管理組合・レックス本郷台グレンアスコート管理組合・神奈川県立私学会館・神奈川労働福祉協会・神奈川県大船警察署・(株)SPIニューアル・(株)大山会計・(株)柏原工務店・(株)キクシマ・(株)大京アスステージ・(株)タツノ・(株)タクエー・(株)ニコン・(株)南建設・横浜市・神奈川県・関内地区市街地再開アップ推進会・(株)ウェイブス・グレージングガーデン管理組合・(社)幸徳会・(社)横浜市社会福祉協議会・聖光学院中学高等学校・損害保険ジャパン日本興亜(株)・東之大船パークタウン管理組合・タイムズサービス(株)・赤池機・秋本機・荒木機・池谷機・石井機・石川機・石渡機・板倉機・入澤機・内田機・大田機・大島機・大塚機・大平機・岡本機・川井機・川崎機・川原機・桂機・木村機・国廣機・小岩井機・肥塚機・此のみち 梅澤機・近藤機・五月女機・坂本機・佐藤機・柴機・末広機・鈴木機・関機・鳶取機・田中機・塚田機・手塚機・永澤機・中本機・新村機・馬場機・原機・福井機・福田機・星機・堀機・松田機・松本機・宮澤機・三好機・村田機・安田機・山口機・吉田機・吉屋機

環境力大賞受賞

経済者環境力大賞に応募し、今年2月に全国で新たに8社が大賞に選ばれました。経済至上主義が主流であった今までの資本主義を地球温暖化や生物の多様性を意識して、生活環境も経済環境も良くしていこうという考えを持ち、次世代をリードする環境力溢れる企業経営者に贈られる賞で、NPO法人環境文明21と日刊工業新聞が、2008年に創設以来、今回までに、51人を表彰したものです。

表彰状

第９回経営者「環境力」大賞

石井造園株式会社
代表取締役
石井　直樹　殿

貴殿は環境の世紀をリードする企業経営者としてすぐれた「環境力」を備えておられます
よってここに深甚なる敬意を表し表彰いたします

平成29年2月24日
認定NPO法人環境文明21
共同代表　加藤三郎　藤村コノエ
日刊工業新聞社
取締役社長　井水　治博

弊社の評価としては、全事業のカーボンオフセットの達成、生物の多様性に関する教育分野、情報発信、NPOを含むステークスホルダーとのコミュニケーション能力の高さ、戦略的なCSRを展開している事の評価を頂きました。

表彰式に挑んだ環境力溢れる経営者と話し合う中で、日本人の持つ大和心の礎である利他の精神、万物の一員としての共生、他を許容する深く広き心を心中に置き、それを戦略として経営している事は大いに共感出来ました。また、各地域の特性を活かし地域志向の特性を、精神とノウハウの両面で、海外に伝えて行こうとする姿は、まさに戦略的環境力を感じました。弊社のCSR目標に、環境経営に力をいれる、と明記しました。

これからも造園業を持続可能な環境配慮型空間創造産業として、邁進していく事を誓います。

内包化に向けた取り組みを

稿寄

横浜市立大学CSRセンター　センター長　影山　摩子弥

「内包化」とは、質を高めることです。では、「CSRの質」とは、なんでしょう？会社の資金と社員を使って、いろんな社会貢献活動をすることでしょうか？いいえ。CSRは、社会貢献活動を含みますが社会貢献活動のことではありません。CSRとは、社会の要請に応えることによって生存を残るというお経営戦略の観点におよびその観点に基づいた取り組みの総体です。したがって、質とは、観点によりどうか、具体的によりはどれだけニーズに応えているか、それによってどれだけ経営的意味を確保しているかということになります。

つまり、CSRの質を高めるとは、観点を磨き、社会にとってよりよい取組みをし、それを通して、一層のメリットを企業が享受するということなのです。

では、質を高めるためには、どうしたらよいでしょう？ステークスホルダーが何を求めているかを的確に把握し、それに対応する取組みをしっかり行うことになるでしょう。

ただ、大規模なアンケート調査などは中小企業にとって難しいですね。しかし、アンテナを張っている社員であれば、業務の中で顧客や地域社会と接する中で、ニーズを把握する可能性があります。また、取組みを業務の現場で実践するのは社員です。つまり、CSRの質は、現場の社員にかかっているのです。CSRの質を高めるためには、CSRを実践できる社員を育てることです。

では、社会貢献活動に関してですが、社員さんが記入する「CSR活動記録」を運用しています。業務記録の一種ですが、その事業にどのような社会的意義と自社にとっての意味があるか、それが達成されているか、などCSRの柱となる事項を記すようになっています。これによって社員は、CSRを理解するとともに、自分の業務をCSRの観点から振り返ることができるようになります。

ただ、記載内容にばらつきや誤解が見られます。それを改善することが、CSRの質を高めることにつながるであろうと思います。

全国都市緑化よこはまフェア

第33回全国都市緑化よこはまフェアが開催されました。「ガーデンネックレス横浜2017」という愛称で3月25日から6月4日まで開催され、会場も「みなとガーデン」、「里山ガーデン」に分かれ広範囲にわたって開催されました。

開催理念である「歴史と未来の横浜・花と緑の物語」をテーマに美しい花と緑豊かなまち横浜が実現されました。

今回弊社ではみなとガーデンのグランモール公園にて、仮設のコンテナを利用した壁面緑化、「グリーンキューブ」を出展いたしました。

開催1年前から準備をはじめ、この企画立案をしたのが高知大からのインターン生堀内彩加さん、外観および内部の展示空間と設置施工を弊社の佐山が担当し、出展に向けて始動いたしました。弊社が従来推し進めていた壁面緑化を展示し、皆様に見ていただけることに感謝すると同時に、担当するスタッフもいつもよりやりがいをもって運営できたのかなと感じています。今回の緑化フェアを通して緑化活動の様々な形態を学ぶことが出来ました。